

**第2次南アルプス市総合計画
後期基本計画・施策マネジメントシート**

作成日：令和4年7月13日

更新日：令和4年9月15日

政策No.	3	政策名	うるおいと活力のある 快適なまちの形成	施策主管課	観光推進課
施策No.	21	施策名	観光の振興	施策主管課長名	飯野 一幸
施策関連課名			観光施設課		

1 施策の目的と指標

(1)対象(誰、何を対象としているのか) ※人や自然資源等	観光客	(3)対象指標(対象の大きさを表す指標)	A 県内への入込客数	単位	人
(2)意図(この施策によって対象をどう変えるのか)	市内を訪れ、まちがにぎわう	(4)成果指標(意図の達成度を表す指標)	① 北岳・広河原・芦安エリアの入込客数	単位	人
			② 榎形山周辺エリアへの入込客数		人
			③ 市内の平地への入込客数		人
			④		
成果指標設定の考え方 (成果指標設定の理由)	① 観光客の市内への訪問状況を示す/何人の観光客が市内を訪れたかは、実数で測ることができるので、成果指標とした。その内訳として、南アルプスエコパークの①核心地域、②移行地域、③緩衝地域の3つのエリアに分けて入込客数を把握することで、それぞれのエリアの入込客の増減の要因などを分析し、来訪者を増やしにぎわいを創出する取組みにつなげることができるので、3つのエリアに分けて成果指標とした。 ② ③ ④				
成果指標の測定方法 (どのように実績値を把握するか)	① 北岳・広河原・芦安エリアの入込客数(出典:県観光入込客統計) ② 榎形山周辺エリアへの入込客数(出典:県観光入込客統計) ③ 平地(①②以外)への入込客数(出典:県観光入込客統計) ④				

2 指標等の推移

対象指標	指標名	単位	数値区分	前期基本計画					後期基本計画					
				H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
A	県内への入込客数	人	見込み値					38,500,000	40,000,000	40,400,000	40,804,000	41,212,040	41,624,160	
			実績値	31,461,975	32,045,792	32,161,839	37,687,727	34,645,512	16,884,267	17,937,425				
B			見込み値											
			実績値											
C			見込み値											
			実績値											
①	北岳・広河原・芦安エリアの入込客数	人	目標値	-	-	-	-	-	25,250	26,500	26,800	27,100	27,400	
			実績値	4,528	34,372	21,000	26,273	19,988	0	8,739				
②	榎形山周辺エリアへの入込客数	人	目標値	-	-	-	-	-	233,000	250,000	255,000	260,000	265,000	
			実績値	177,326	204,311	196,993	223,491	180,614	142,966	161,634				
③	市内の平地への入込客数	人	目標値	-	-	-	-	-	285,600	300,000	306,000	312,000	318,000	
			実績値	304,642	287,416	249,797	274,423	247,447	156,837	113,047				
④			目標値											
			実績値											
目標設定の考え方・理由(可能性と必然性)														
① 令和元年度の成り行き値については、気象状況を考慮し、平成30年度の実績値の約5%と減とした。令和2年度は、東京オリンピック・パラリンピックにより訪日外国観光客が増加することから前年度の成り行き値の約1%増加を見込む。令和3年度は、令和2年内に中部横断道全線開通し、静岡方面からの山岳観光客が増加することを見込み、前年度目標値の約5%とし、それ以降は、リピート率の向上を鑑み毎年前年目標値の約1%の増加とした。なお、山岳観光については、その年の気象状況等により変動幅が大きいので、そのことを考慮し目標設定を行った。														
② 令和元年度の成り行き値については、山梨県全体の観光客入込客数の推移から平成30年度実績値の実績値の約2%と増とした。令和2年度は、東京オリンピック・パラリンピックにより訪日外国観光客が増加することから前年目標値の約2%増加を見込み、令和3年度は、令和2年内に中部横断道全線開通し、静岡方面からの観光客が増加することを見込み、前年度目標値の約5%とし、それ以降は、リピート率の向上を鑑み毎年前年目標値の約2%の増加とした。														
③ 令和元年度の成り行き値については、山梨県全体の観光客入込客数の推移から平成30年度実績値の実績値の約2%と増とした。令和2年度は、東京オリンピック・パラリンピックにより訪日外国観光客が増加することから前年目標値の約2%増加を見込み、令和3年度は、令和2年内に中部横断道全線開通し、静岡方面からの観光客が増加することを見込み、前年度目標値の約5%とし、それ以降は、リピート率の向上を鑑み毎年前年目標値の約2%の増加とした。														
④														

3 施策の役割分担

①市民(市民、事業所、地域、団体)の役割(住民が自分でやるべきこと、地域やコミュニティが共助でやるべきこと、行政が協働でやるべきこと)	②行政(市、県、国)の役割(協働を進めるため市がやるべきこと、県がやるべきこと、国がやるべきこと)
<ul style="list-style-type: none"> おもてなしの気持ちをもって観光客を迎える。 地域の観光資源に気付き、その魅力を発信する。 観光関係者(観光協会、団体、事業所等)は、連携強化に努める。 地域資源を活用した観光コンテンツの造成。 旅行消費を拡大し、地域経済の活性化。 	<ul style="list-style-type: none"> 観光情報の発信 市営の観光施設の適切な維持管理 観光インフラ整備(サイン、道路、Wi-Fi)。 各種規制との調整。 観光関係者への各種支援措置

4 施策の状況変化・住民意見等 ※目標設定の前提とした後期基本計画策定時点の状況変化・住民意見等を記載しています。

①施策を取り巻く状況変化(対象や根拠法令等は、今後(~R6年度末を見越して)どのように変化するか?)	②関係者からの意見・要望(この施策に対して住民(対象者、納税者、関係者)、議会からどんな意見や要望が寄せられているか?)
<ul style="list-style-type: none"> 令和2年内に中部横断道(新清水JCTから双葉JCT)の全線開通により、静岡県、愛知県等の東海エリアからのアクセスが向上し、山梨県を訪れる方が増加すると見込まれる。 リニア中央新幹線の開業を踏まえたインフラ整備が進むと見込まれる。 2020年の東京オリンピック・パラリンピックが開催されることにより、訪日外国人旅行者数が4,000万人を達成すると見込まれており、山梨県を訪れる外国人観光客数を増加すると見込まれる。 県道甲斐・早川線のトンネル開通することにより、広河原へのアクセスが向上することに伴い、南アルプス山域への登山者数が増加すると見込まれる。 観光協会、商工会、JA、交通事業者、宿泊施設、飲食店等が協働で観光推進するための観光地域づくり法人(DMO)の組織化が見込まれる。 	<ul style="list-style-type: none"> 議会から南アルプスエコパークを活用した観光振興を推進するよう求められている。 観光農業従事者からインバウンド観光推進するための情報発信力を強化(SNS対応)の要望がある。 インバウンドに対応した誘導看板の設置要望がある。 山岳観光の充実のため、市営芦安駐車場内にもつなカフェの設置要望がある。 県道南アルプス公園線、県営林道南アルプス線において実施されているマイカー規制期間を延長を要望する意見がある。

5 予算等の推移

※当初予算。骨格予算の年度は6月補正後

区分	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度
関連事業本数	40	35	36		
関連事業予算額(単位:千円)	712,049	603,338	314,513		
(予算額の内訳)	国庫支出金	0	0	0	
	県支出金	4,317	366	9,900	
	地方債	448,500	316,600	12,700	
	その他	34,067	34,374	39,626	
	一般財源	225,165	251,998	252,287	

(1)目標達成度(目標値との比較)		※背景・要因と考えられること(根拠となる実績値、判断理由など)
<input type="checkbox"/> 目標より高い実績値だった <input type="checkbox"/> どちらかといえば目標より高い実績値だった <input type="checkbox"/> 目標どおりの実績値だった <input type="checkbox"/> どちらかといえば目標より低い実績値だった <input checked="" type="checkbox"/> 目標より低い実績値だった		・北岳・広河原・芦安エリアの入込客数については山小屋も利用制限を行い営業を行っていたが8月20日から9月30日の間はまん延防止等重点措置のため臨時休館を行ったことも影響し、人数が目標値を大きく下回った。(広河原・芦安温泉周辺の入込客数は県調査で把握できなかったため、市把握の実数値とした。) ・楡形山周辺エリアの入込客数については前年度より増加したものの目標値を大きく下回った。 ・市内の平地への入込客数については前年よりも下回り、目標値も大きく下回った。
(2)時系列比較(どのように変化してきたか)		※背景・要因と考えられること(根拠となる実績値、判断理由など)
<input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した <input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば向上した <input type="checkbox"/> 成果はほとんど変わらない(横ばい状態) <input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば低下した <input checked="" type="checkbox"/> 成果がかなり低下した		・北岳・広河原・芦安エリアの入込客数については、山小屋は利用制限を伴った営業や臨時休館の影響もあり入込客数は大幅に減少している。 ・楡形山周辺エリアの入込客数については、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の観点からイベントなどは縮小したものの三密を回避できる手頃な観光地であるため前年にくらべ増加傾向にある。 ・市内の平地への入込客数については、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の観点から大きなイベントなどは中止した影響もあり減少傾向にある。
(3)他団体比較(近隣他市、県・国との比較など)		※背景・要因と考えられること(根拠となる実績値、判断理由など)
<input type="checkbox"/> かなり高い成果水準である <input type="checkbox"/> どちらかといえば高い成果水準である <input type="checkbox"/> ほぼ同水準である <input type="checkbox"/> どちらかといえば低い成果水準である <input checked="" type="checkbox"/> かなり低い成果水準である		成果指標と同じ所は存在しないため、全体としての評価となるが、山梨県全体の観光入込客数における本市の割合は約1.6%となっている。 世界遺産に登録されている富士五湖・東部エリアの約42%、八ヶ岳のある峡北エリアの約13%と比較すると、かなり低い水準である。 令和2年度についてもほぼ同様の割合となっている。

7 基本計画期間における施策方針

(1)施策の基本方針
<ul style="list-style-type: none"> ・市内を訪れる観光客を増加させるために、県内外や海外へ観光プロモーションを行う。 ・地域資源を活かした観光振興に取り組み、外国人観光客を含む交流人口の増加につなげる。 ・観光施設を充実し、観光客の満足度を高め、南アルプス観光のグレードアップを図る。

8 施策の目標達成のための基本事業の今年度(R4年度)の取組(事務事業)状況・今後の課題と次年度(R5年度)の方針

基本事業	今年度(R4)の取組(事務事業)状況及び今後の課題	次年度(R5)の方針
1 観光情報の発信	SNS、Webサイト、メディアなど多種多様な媒体を通じて、県内外や海外に南アルプス観光を発信していく。 特に、静岡山梨間が開通した中部横断自動車道の利活用を踏まえ、東海圏・中京圏への観光プロモーションを積極的に行う。 また、新たな広域経済圏「山の州(静岡・山梨・長野・新潟)」の形成により長野、新潟方面への観光プロモーションにも取り組んでいく。 課題は、人員に限られているのでエリアを拡大していく中でいかに効率的に実施していくかを見直す必要がある。	SNS、Webサイト、メディアなど多種多様な媒体を通じて、県内外や海外に南アルプス観光を発信していく。 特に、中部横断自動車道の利活用を踏まえ、東海圏や長野、新潟への観光プロモーションを行いつつ、今後、市内に予定の誘客施設の開設を見越した観光情報の発信拠点の在り方も検討していく。
2 観光客のニーズに合ったコンテンツの充実	withコロナに伴う新しい生活様式も定着し、経済活動も進む中、観光客も徐々に増加傾向となってきました。山岳観光や果物観光だけでなく、スポーツツーリズムや歴史・芸術文化を活用した観光プログラムの開発にも取り組む必要がある。 今ある資源をいかに生かしていくかを市内事業者や関係団体と共に考え、テストツアーなどを実施しながら進めていく。 課題は、新型コロナウイルス感染者の感染状況により情勢がまだに不安定であるため、インバウンド観光については状況を見極める必要がある。	従来の山岳観光や果物観光などの強みを活かしつつ、年間を通じて観光を楽しめるプログラムの創設を引続き観光協会や市内事業者と連携して取り組んでいく。 また、外国人観光客向けの観光ガイドブックを作成し、静岡空港や高速サービスエリアなど近隣の主要交通拠点での配布を行うなどし、コロナ終息後のインバウンド需要に備える。
3 観光施設を活用した誘客の促進	市内の観光施設などを最大限に活用し、誘客を促進する。特に、エコパ伊奈ヶ湖は、自然環境を活かしたエリアであるので、今後は、周辺環境の整備や体験プログラムの充実などにより、さらに魅力向上を図る。 課題は、冬期の誘客であり、通年型観光の構築は難しい。 また、山梨県における南アルプス観光振興と連携するため、市営芦安駐車場及び夜叉神峠周辺の観光の振興を図るため民間の関係団体と芦安観光高付加価値化検討ワーキングを6月に立ち上げ、年内を目標に、ソフト、ハード両面からアクションプランを検討するとともに、実証ツアーやテストイベントを開催していく。今後は、県道甲斐早川線の芦安早川トンネルの開通を見据えた通年型観光が可能な施設整備が課題となる。	市内の観光施設などを最大限に活用し、誘客を促進する。 特に、エコパ伊奈ヶ湖は、自然環境を活かしたエリアであるので、周辺の整備及び体験プログラムの充実など、学びと遊び両面での活用と誘客を推進する。 また、県の実証ツアーやテストイベントの結果を踏まえ、ツアーやイベント事業を継続しつつ市営芦安駐車場周辺及び夜叉神峠周辺の観光振興基本計画を策定する。
4		
5		